



北海道医歌人会詠草

時 間

江別 三宅 浩次

若き日は有り余る時を無駄にして置き忘れたる交々のこと
旧友の遺品となつた置時計針の動きは変わることなく
川面を枯葉一葉流れ行く還ることなく時も流れて
気がつけば今年も暮の月となり去り行く時の速さを感む
光速をインシユタインの理論超え素粒子報道眉に唾する

T P P

札幌 山口 康徳

今年こそわれらが年と竜親子のさばる魑魅魍魎をこらしめんとす
狂乱と怒濤を経たるT P P成果上るを国民ら期し待つ
北の地も暖気寄せしや木々の色紅緑黄と目にいと冴やか
震災に負けじと奮ふフラガール散る人集ひマグネットの如く
大都市に予想こえたる熊鷹集食なきときは人・生物みな同じ

冬の訪れ

札幌 古屋 統

年寄がショッピングモールの長椅子の温みに溜まる冬の訪れ
店開くを待ちて入りて一日をモールに過ごす常連のあり
開く前に来て最後まで居る人の罅の内は誰も知らざる
病院の待合室より静かにて病まざる老いも侘びしさを待つ
遠からぬ〇〇病院待合にあぶれし人も寄るモールなり

フラテ祭

美唄 吉村 誠治

フラテ祭に集ひし同期は四名かともかく共に八十才を越えて
婦人の声に華やぎてゐる懇親会女性会員の出席多く
一新されし北大病院巡り行き世界トップの癌治療を見る
美唄労災の旺んなる時を共にせし友との語りは深夜に至る
名簿と顔を見合せゆく思ひ出せぬ二人もありて二十年は長し
(労災病院OB会)

芙蓉

札幌 浜島 泉

芙蓉咲く庭をすがめて車輛行く天橋立へ単線軌道
奔流に舟を操り櫓をなして観光客に口説する舟人
保津川を下る舟へと手を振りて巖より淵へ若きらジャンプ
トンネルを抜け出で瓦屋根の村器械刈りにて稲田裸に
観光の記念と妻は弁当を包むハンカチ組みて購めり

ついのすみか

釧路 児玉 昌彦

生涯を仮屋住まいと定めたるその果てに得むついのすみかは
「数年を経ず帰らむ」を口癖に根はしっかりと北の大地に
転々と引つ越しのたび荷物ふえ「そろそろ断捨離」覚悟決めねば
父の齡越えて生きたる十余年人生総括なお余白あり
草むらに小さき蜘蛛の巣張りてありささやかながらそもマイホーム

電 話

旭川 稻積 文子

八十を過ぎた今競い合う気力なし耳底に挑む言葉残れど
学友等は皆逝きてしまえりと疎遠の人より淋しき電話
ゴチンゴチンとぶつかりてなを動き止めぬ孫には孫の意地があるらし
笑顔多く誰にでも好かれればそれで好しすく育つ事のみ願いて
無理難題たつぷりと押しつけてお役人天下は何処も同じ